

2019（令和元）年度

三草山ゼフィルスの森 保全活動計画

2019年 6月 24日

三草山ゼフィルスの森保全検討会議

2019（令和元）年度 三草山ゼフィルスの森 保全活動計画

三草山ゼフィルスの森について、2017（平成 29）年度までに行われた 3 カ年事業で、保全活動を継続させるための基盤整備が行われました。一方で 2018（平成 30）年度に発生した災害への対応も重要な課題です。今年度は長期計画に基づいて、今までの保全活動を発展させるため、次のような活動を行います。

【2019（令和元）年度の主な事業内容】

1. 三草山ゼフィルスの森の更新・管理

① 萌芽更新

- ・ 2007（平成 19）年度に更新された観察台のあるエリア
約 1ha 更新施業を行う

更新施業後は、1 本ずつの鹿除けを設置することにより鹿対策を施す

② ナラガシワ等の苗の育成・補植

- ・ 種をシートトラップで回収し、麓の苗畑や拠点ハウス内で育てる

③ ササ管理

- ・ 防火帯の刈払いについては、急勾配の事業地西半分をプロに委託し、残りをボランティア活動で行う
- ・ 防火帯以外のササ刈りについては、観察会などのイベントに支障が出る場合や、スミレ類などの光環境を守るために適宜行う

④ 多様な種のチョウが生息する環境整備

- ・ 防鹿柵内の下草刈りを行い、スミレ類などチョウが好む花を増やす
- ・ モチツツジやヤマツツジなどを接ぎ木などで確保できないか検討する

⑤ 看板、目印の整備

- ・ 破損している看板を再設置（事業地内の看板を調査する）
- ・ 25m 毎に打たれている杭を再設置し、事業地内の目印とする

2. 調査・研究地、教育の場、演習林としての活用

① ゼフィルス類個体調査

- ・ 6 月 16 日（日）実施済

② ゼフィルス類卵調査

- ・ 萌芽更新施業とあわせて調査を行う

③ 植生調査

- ・ 8 月に毎年同じ場所で大阪府立大学と共同研究で行い、経年変化を記

録する

- ・2017年度更新地の萌芽状況を確認する

④ 各種調査・研究地

(昆虫・チョウ類・シカ害・気象・地質・歴史文化・景観・医療・環境経済学など)

- ・様々な研究者の研究対象地として活用を図る⇒研究助成制度の導入(別紙)

⑤ 森林 **ESD** 活用地

- ・関連のある小中学校に森林 **ESD** の需要と実施可能性についてヒアリングを行う
- ・地元の小中一貫校や私立の幼稚園に三草山ゼフィルスの森の動植物資料を配布し、夏休みの自由研究の場として活用を促す
- ・森林活動専門家が実習を行う場所としての活用
森林活動専門家に対し、実習林の場についてヒアリングを行う

3. 里地里山一体となった管理

① 薪や櫓木の製造

- ・萌芽更新施業時には、樹木を薪や櫓木などに有効活用する

② クヌギやコナラの苗畑

- ・麓の畑を採集したドングリを植え、苗畑として活用する

4. 普及啓発

① 調査結果の公表

- ・各種調査結果を **HP** で公表する

② シンポジウムの開催

- ・地元能勢町で三草山ゼフィルスの森を広く伝えるシンポジウムを開催

③ 観察会の開催

- ・6月16日(日)に実施済

④ ハイキングなどイベントの開催

- ・2020(令和2)年春開催を検討する

⑤ 麓の「タガメの田づくり」活動を通じた情報発信

- ・麓と山の持続可能な里地里山一体管理の必要性をタガメの田づくりイベント参加者に伝えていく

5. 災害・各種被害対応

① 進入路の補修

- ・ 神山、上杉側進入路の補修の協力を、大阪府や能勢町に依頼する
- ② 山腹崩壊地の対応
 - ・ 山腹崩壊地の対応について、大阪府と協議を続ける
- ③ 防鹿柵の補修（発生時随時）
 - ・ 台風などで倒木が発生し、防鹿柵に被害が出た場合は随時補修を行う
- ④ ナラ枯れ
 - ・ ナラ枯れ被害が収束するまで、能勢町に被害木の伐倒駆除を依頼
- ⑤ シカ害
 - ・ 萌芽更新の成功、様々な植物の確保のために、シカ害対策を行う

6. 保全活動推進体制

- ① 三草山ゼフィルス^oの森保全活動グループ（仮称）の活動人数を森人塾卒業生などにも呼び掛けて確保し、組織化を進めるとともに、活動の更なる充実を図る
- ② 巡回活動の委嘱により、保全活動を行う上で支障となる事態を早急に把握し、適切な対応を図る
また、現在委嘱先の城好会が高齢化により限られた人員で巡回を行っているため、新たな委嘱先を検討する

7. その他

- ① 地上権について
2021（令和3）年度で30年契約の地上権が終了